

【川崎市橋処理センター】

<p>視察項目</p>	<p>脱炭素化や環境対策に取り組む最新のごみ処理施設について</p>
<p>視察項目の概要</p>	<p>本市では、将来的な東部環境工場の次期施設建設に向けて検討を開始したところである。今後、次期施設の基本構想策定に向け、最近建設され、脱炭素社会へ貢献するごみ処理技術や高度な排ガス処理設備を有する最新のごみ処理施設を視察するもの。</p>
<p>視察項目に関する本市の 現状・課題</p>	<p>(現状)</p> <p>次期施設のごみ処理方式の検討とごみ処理に係る様々な技術情報の収集を行っている。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○次期施設への脱炭素新技術の導入 ○施設周辺への環境配慮(良好な大気環境の維持) ○建設候補地周辺住民の理解

視察のポイント

視察先である橘処理センターは、川崎市内に4箇所あるごみ焼却施設の1つであり、約40年稼働した旧施設の老朽化に伴い、令和6年4月より新施設が稼働している。市街地に位置する同工場は、本市東部環境工場と同様に、1日あたり600tの焼却能力を有しており、ごみ処理過程で発生する熱エネルギーを利用して隣接する川崎市民プラザ(ホール、体育館や温水プールなどを有する複合施設)へ蒸気の供給を行っている。また、雑紙を処理する資源化処理施設を併設している。本視察では、同工場の以下取組について参考とするもの。

- ごみ焼却の熱エネルギーを最大限活用する最新の発電技術
- 全国トップクラスの排ガス基準を達成する環境対策
- 周辺環境に配慮した建物デザイン

令和7年度 環境水道委員会行政視察 事前勉強会資料

【柏市議会(柏市上下水道局)】

視察項目	下水道管路の劣化ハザードマップの活用について
視察項目の概要	<p>地中にあり容易に見ることができない下水管に対して、点検データに基づく劣化ハザードマップを作成し、下水管の状態を可視化することで、市民に分かりやすく伝えるツールとして活用する。</p> <p>また、地域別劣化特性などを明らかにし、中長期経営計画に反映することで、ライフサイクルコストの最小化など予防保全とリスクの最適なバランスを目指す。</p>
視察項目に関する本市の現状・課題	<p>上下水道事業経営戦略中期実施計画(R7-R9)において、下水道管路の劣化進行のため改築更新を進めていく区域を示している。</p> <p>(布設年度が古く陥没リスクが高い地区を中心に下水道管路内のテレビカメラ調査を実施し劣化状況を確認している)</p>

	<p>過去 5 年間で発生している下水道起因の道路陥没発生箇所も上記区域内に集中しており、実際のハザード状況とも合致している。</p> <p>一方で、比較的布設年度の新しいエリア(リスクが小さいエリア)については、硫化水素の発生等により劣化が進行しやすい腐食環境下の管路を除き、カメラ調査等による調査・分析は実施していない。</p>
<p>視察のポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○市内全域の下水道管を見える化するにあたっての調査・分析の方法(詳細調査(テレビカメラ調査)、簡易調査(管口カメラ)の使い分けと調査結果の分析方法など) ○平均期待寿命(幹線 112 年、枝線 106～168 年)の考え方 ○ハザードマップと中長期経営計画の関係性(調査改築対象の選定)

令和7年度 環境水道委員会行政視察 事前勉強会資料

【横浜市南部水再生センター】

視察項目	ドローンを活用した施設等の維持管理について
視察項目の概要	下水処理施設における施設・設備の維持管理や点検にドローンを活用することで、安全を確保しつつ短時間での確認が可能となる。 また、ストックマネジメント計画のもととなる点検等の活用を目指す。
視察項目に関する本市の現状・課題	下水道施設の点検業務については人力によって実施しているが、建物外壁や高所の点検については、費用が掛かることから実施できていない状況である。
視察のポイント	○災害時だけでなく、平時におけるドローンを活用した点検方法 ○建物外壁や高所の点検への導入可能性 ○赤外線カメラによる建物躯体のクラック調査への応用